一般口演

1.　EAT（上咽頭擦過療法）への弁証の応用

石井 健一

樹の里クリニック

【目的】
　EAT（上咽頭擦過療法）は、慢性上咽頭炎に対して日本で以前より行われてきた治療法であり、近年では上咽頭局所への作用に加え、自律神経調整作用や気道炎症抑制作用など全身的効果も報告されている。一方で治療反応性には個人差があり、効果を事前に予測する指標の確立が課題である。本検討では、中医学の診断体系である弁証をEATの適応判断に応用する意義について、対照的な2症例を通して考察した。

【方法】
　当院を受診した慢性上咽頭炎患者のうち、EAT単独治療に対して異なる反応を示した2症例を対象とした。初診時に上咽頭内視鏡による評価を行い、問診、舌診、脈診により弁証した。治療は1%塩化亜鉛溶液を用いたEATを週1回施行し、症状および内視鏡所見の変化を観察した。

【結果】
　症例1は32歳女性。喉の違和感、頭痛、全身倦怠感を主訴とし、上咽頭には強い発赤、腫脹、痂皮、後鼻漏を認め、上咽頭スコアは8点で重症であった。精神的ストレス、頭痛、暗赤舌、舌下静脈怒張、弦脈などから気滞血瘀と弁証した。EAT開始後、頭重感は早期に改善し、5回目には咽頭症状がほぼ消失し、復職可能となった。症例2は82歳女性。後鼻漏、鼻汁を主訴とし、上咽頭粘膜は菲薄化、萎縮、乾燥を呈し、上咽頭スコアは5点で中等度であった。手足のほてり、寝汗、聴力低下、乾燥した紅舌、やや数脈などから肺腎陰虚と弁証した。EAT後は咽頭痛が強く、本人希望で20回まで施行したが主訴および内視鏡所見の改善はほとんど認めなかった。

【考察】
　本2症例は、EAT単独治療に対して対照的な経過を示した。気滞血瘀では、気機の停滞や微小循環障害に対し、EATの局所刺激、自律神経調整作用、循環改善作用が病態に合致した可能性がある。一方、肺腎陰虚では、陰液不足による粘膜の乾燥・萎縮が背景にあり、EATの物理的・化学的刺激が侵襲的に作用した可能性が考えられた。EATが適応となり得る証は気滞血瘀に限らず、肝鬱気滞、痰湿阻滞、湿熱鬱滞などもあり、弁証は局所所見だけでは把握しにくい全身状態を補足し、治療選択のナビゲーターとなる可能性がある。今後は症例を蓄積し、各証におけるEATの反応性、刺激量、治療間隔、漢方併用の必要性について詳細に分析したい。

キーワード：上咽頭炎、EAT（上咽頭擦過療法）、弁証論治

一般口演

2.　中国での学会参加および病院見学報告

渡邉 祐登

東桂メディカルクリニック

2026年6月26日から28日まで3日間中国の広州で開催された「世界中医学会連合会耳鼻咽喉口腔科専門委員会第18回学術年会」に日本から総勢14名で参加いたしました。本学会は、中医学を用いた耳鼻咽喉科および口腔科領域における最新の知見を共有し、国際的な学術交流を深めることを目的としている、とのことです。

今回の学会には中国の広州中医薬大学第一附属医院の先生を中心に中国全土から多くの先生が参加されました。まず広州中医薬大学の先生を中心にメイン会場で公演が行われました。日本からも東方医学会会長である長瀬眞彦先生が発表されました。午後からは分科会となり、中国における中医学の知見・実際を学ぶことができました。日本からも5名の医師・歯科医師・鍼灸師の先生が分科会で発表されました。

学会参加は27日土曜日の1日のみでしたがその後広州及び深圳に滞在しました。生薬を作成している会社や深圳の特許取得を支援する会社への見学へ行きました。

29日月曜日に広州中医薬大学第一附属医院へ病院見学をする機会がありました。施設内の見学に加え、実際の中医師の診療風景を見学することができました。診療で見学できたのは数名のみでしたが、問診を大事にしている様子や風土に応じた生活習慣の改善を指導している様子が非常に印象的でした。

今回中国の学会に参加するという経験に加え、実際の中医師の診察に同席するという非常に貴重な機会を得たので今学会で共有したいと思います。

キーワード：中国、世界中医薬学会連合会、学会参加報告、広州中医薬大学

一般口演

3. 頸椎椎間板ヘルニアによる頸上肢痛に柴胡加竜骨牡蠣湯と桂枝茯苓丸の併用が著効した40代女性の一例

森本 理芽子[1)] ・長瀬 眞彦[2) 3)]

1）レンファミリークリニック　　2）吉祥寺中医クリニック
3）順天堂大学医学部 医学教育研究室

【目的（背景）】
頸椎椎間板ヘルニアなどの慢性疼痛に対し、西洋薬で効果不十分な場合でも、東洋医学では気血水の乱れを考慮した多角的なアプローチが可能である。今回、西洋薬で残存した頸上肢痛が、柴胡加竜骨牡蠣湯と桂枝茯苓丸の併用により随伴症状とともに著効し、西洋薬の減量・中止が可能となった一例を報告する。

【症例】
40代女性。X年1月に頸部痛、左上肢痛を主訴に初診となった。C5領域に疼痛を認め、頸椎椎間板ヘルニアと診断した。筋力・反射は正常。プレガバリンとロキソプロフェンの内服により疼痛はNRS 5/10に軽減したが、左上肢痛と肩こりが残存していた。また、以前からの強い排卵痛と夜間の噛みしめ症状を認めていた。X年6月より、柴胡加竜骨牡蠣湯と桂枝茯苓丸の併用療法を開始した。

【結果（考察）】
漢方薬の併用開始後、頸上肢痛はNRS 1/10へと劇的に改善し、排卵痛と夜間の噛みしめも消失した。症状の著明な軽快に伴い、現在ロキソプロフェンは中止し、プレガバリンは減量中である。本症例の疼痛の背景には、精神的緊張による「気滞」（噛みしめ）と、月経周期に関連する「瘀血」（排卵痛）が関与していたと考えられた。柴胡加竜骨牡蠣湯による疎肝解鬱作用と桂枝茯苓丸による駆瘀血作用の組み合わせが、気滞と瘀血という心身両面の病態に多角的に作用し、諸症状の速やかな改善と西洋薬の減量・中止に寄与したと考察される。

【結語（結論）】
西洋薬でコントロール不良な頸椎椎間板ヘルニアに伴う頸上肢痛に対し、随伴症状から気滞や瘀血の病態を捉えて柴胡加竜骨牡蠣湯と桂枝茯苓丸を併用することは、西洋薬の減量・中止を可能にする有用な治療選択肢となり得る。

キーワード：頸椎椎間板ヘルニア、柴胡加竜骨牡蠣湯、桂枝茯苓丸、気滞、瘀血

一般口演

4.　Spotifyで漢方の話、再生回数について考察

中田　薫[1) 2)]

1）中田医院 中国医学研究所　　2）東京科学大学病院 循環器科

【緒言】

私は山梨県のコミュニティーＦＭで「中田薫とほどほど漢方」という１５分番組を毎週１回９２０回放送している。令和７年１１月よりほぼ同じ内容を毎週１回Spotifyに４４回投稿している。Spotifyでは再生回数が表示されるので、聴取者の興味が分かるので考察してみた。

【方法・結果】

令和７年１１月８日から令和８年６月１３日まで４４話をSpotifyに投稿（公開）した。Spotifyの聴取回数合計は２７１６回。聴取者の性別は男３１%、女５２%、不明１７%、年齢分布は４５～５９歳４７%、３５～４４歳１８%、６０歳以上１６%であった。再生回数で多いエピソード名は1番「心の治療」１６７回、２番「自己免疫疾患」１０９回、３番「がん」１０５回、４番「健康寿命」であった。パフォーマンス（他のエピソードと比べてのパフォーマンス）は標準より高い物は６つあり、１・２番「日本人の健康に良い飲食物１発酵食品・２薬膳」、３番「日本人が飲んでもよいお酒」、４番「自己免疫疾患」、５番「弱い毒小麦粉」、６番「心の治療」です。パフォーマンス下位は「うつ病」「いろいろ」「健康寿命と平均寿命」「いろいろ　その２」だった。

【考察】

４５歳以上で再生回数とパフォーマンスともに上位は「心の治療」と「自己免疫疾患」「がん」である。この年代は自分と関係がある疾患に興味があると考える。飲食物については１０話投稿しているが比較的上位に興味があるようだ。内容は「弱い毒の小麦粉」「日本人の健康に良い飲食物１発酵食品・２薬膳」「日本人が飲んでもよいお酒」「江戸時代の飲食物」「薬膳」「プチ断食」などである。飲食物についての話題は全年齢に興味があると思う。パフォーマンスの低い話題は「健康寿命」「アンチエイジング」「うつ病」「いろいろ（内容が無い）」等で聴取者はまだ亡くなる事に興味がないか、うつ病のように疾患単位の話題は少ないようだ、内容が無い「いろいろ」な話は当然のことではあるが低い。

キーワード：spotify、podcast、再生回数